

○ 委員長報告

2月定例会本会議で報告された総務企画国体委員長報告は、以下のとおりです。

平成28年2月定例会

総務企画国体委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、市町への権限移譲についてであります。

このことについて一部の委員から、これまでの権限移譲の取り組みと成果はどうか。

また、移譲を進めていくうえでの課題はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県では、平成18年度に策定した愛媛県権限移譲推進指針に基づき、市町の意向を最大限尊重し、毎年度協議のうえ計画的に移譲を進めている。

今議会に提案しているものを含め、87法令、1,183事務を移譲しているが、特に、パスポートやNPOの認定など、住民に身近な事務の移譲により、住民サービスが向上したと聞いている。

また、課題としては、小規模な市町では受入体制が整っていないことや、処理件数の少ない事務のノウハウの蓄積が難しいことなどがあげられる。

県としては、今後も市町の要望を踏まえながら研修会や意見交換会を開催するなど、情報提供とコミュニケーションを図り、円滑な移譲を進めていきたい旨の答弁がありました。

第2点は、自転車新文化推進基金についてであります。

このことについて一部の委員から、愛媛県自転車新文化推進基金について、どのように資金を調達し、本基金をどう活用するのか。また、基金の規模はどのくらいかとただしたのであります。

これに対し理事者から、寄附金の募集については、県ホームページ、広報用チラシやメディアへの協力依頼など、様々な媒体を通じて県内外に広く基金の周知を行い、「自転車新文化」への理解を深めていくとともに、しまなみ海道国際サイクリング大会を所管する経済労働部と連携して、前回の大会協賛企業を中心に募集活動を展開するほか、自転車愛好家の裾野の広がりが顧客拡大に

繋がることから、自転車関連企業等にも働き掛けていきたい。

また、積み立てた基金は、国際サイクリング大会の協賛金として活用するとともに、新たに立ち上げる官民連携組織「愛媛県自転車新文化推進協会」において、愛媛サイクリングの日関連事業への支援をはじめとする自転車新文化の普及、拡大に資する事業に活用し、「サイクリングパラダイス愛媛」の実現に向けて取り組んでいきたい。

なお、平成 28 年度の基金規模については、企業や県民からの寄附 2,200 万円程度を見込んでいる旨の答弁がありました。

第 3 点は、えひめ国体・えひめ大会の開催機運の醸成についてであります。

このことについて一部の委員から、えひめ国体・えひめ大会の開催に向け、今後どのように広報活動を展開し、開催機運の醸成を図っていくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、来年度は開催年突入を記念して、1月22日に、ひめぎんホールと県身体障害者福祉センターを会場として、吉本興業との提携による、仮称、愛顔つなぐよしもと大博覧会「スポーツフェスティバルIN愛媛」いよいよ開催！えひめ国体・えひめ大会を開催予定であり、吉本興業の高い集客力を活用して、「スポーツと笑いによる健康増進」、「ブース展開やワークショップによる地域振興」、「障害者スポーツの体験を通じた理解促進」などを図り、幅広い年齢層の県民に両大会への参加意識を高めてもらう機会としたいと考えている。

また、しまなみ海道国際サイクリング大会、ゆるキャラグランプリ決戦投票、えひめいやしの南予博等の県内広域イベント会場にも積極的に出向き、所管部局と連携の上、両大会の周知を図るなど、今後とも、県民の皆様にも両大会への関心を持っていただき、県民総参加による愛媛らしい大会となるよう、市町や競技団体等と一体となって開催機運の醸成に努めていきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・私立高校の耐震化
- ・全国版の行革甲子園
- ・えひめFreeWi-Fiプロジェクト推進事業
- ・「三浦保」愛基金
- ・えひめ国体開催に向けた施設整備の進捗状況
- ・えひめ国体・障害者スポーツ大会開催基金積立金

などについても、論議があったことを付言いたします。

最後に、請願について申し上げます。

当委員会に付託されました請願3件については、いずれも願意を満たすことができないとして、不採択と決定いたしました。

以上で報告を終わります。